

| | | | | | |
|------------|---------------|-----------|-------|-----------------|---|
| 団体名 | 広島県 | 所属 | 農業基盤課 | 他団体等との連携 | — |
| 連絡先 | (082)513-3643 | | | | |

| | | | |
|--------------|-----------------|-------------|--------|
| 取組事例名 | とびしま海道「豊浜大橋」の改修 | 取組期間 | 平成24年度 |
|--------------|-----------------|-------------|--------|

取組の概要 ～ 地域ニーズに即した橋梁改修

豊浜大橋の補修工事にあたり、サイクリストや呉市からの路面改良の要望を踏まえ、利用者や管理者の視点に立ち、安全で快適に走行できるよう、新たな工法を検討・開発した。

取組の背景 ～ サイクリストの増加と安全性の確保

平成4年11月に開通した豊浜大橋は、多くのサイクリストで賑う「とびしま海道」の中でも、雄大な眺望を楽しめる人気のポイントとなっている。この橋は自動車の走行を前提に車道が整備されているため、橋梁のジョイント部分（橋梁の伸縮を調整する装置）の空隙が大きく、路面は自転車走行には適していない状態にあった。

取組のねらい ～ 自転車も安全に走行できる橋へ

利用者や施設管理者である呉市のニーズを勘案し、自動車だけでなく自転車も安全に走行できる路面に改修すること

取組の具体的内容 ～ 塗装工事の工程に影響を及ぼさないよう施工できる工法を開発

安芸灘地域に設置した農道橋の耐震対策として、平成23年10月から豊浜大橋の補修工事に着工し、当初計画では橋梁のジョイント部を隙間がごく小さい仕様の部材で全面的に取替えることとしていた。

しかしながらジョイントを取替える工法では、改良が大規模かつ工事費が高額となることから、鋼板を加工し、ジョイントの隙間を覆う工法を検討した。

鋼板で被覆する構造は、当初の計画に比べ耐久性に劣るため、使用部材の選定、構造形状及び定着方法などを検討することでジョイントが持つ荷重や温度変化による膨張・収縮を吸収する機能を妨げず、5年程度の耐用年数を確保した。このことにより、自転車はもとより自動車も安全に走行でき、かつ補修工事（塗装工事）の工程に影響を及ぼさないよう施工できる工法を開発した。



取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 維持管理と耐用年数の考慮

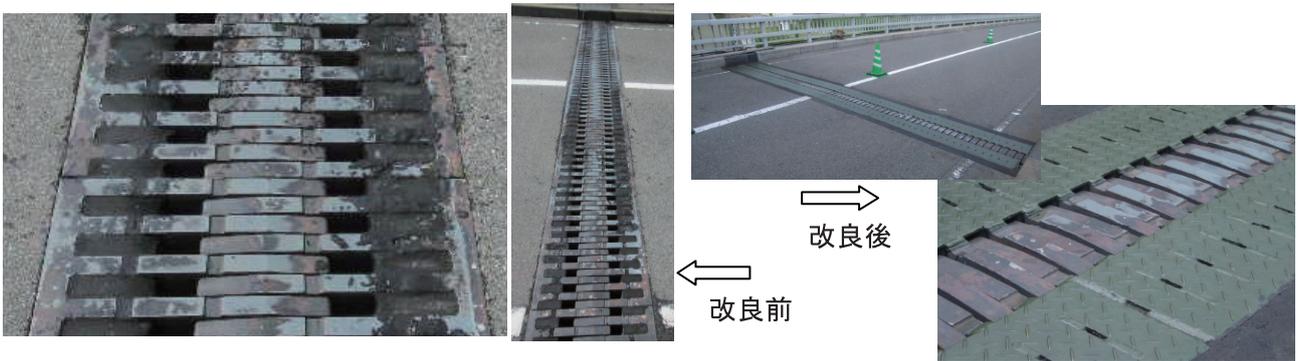
ジョイントを全面的に交換する工法は、大規模かつ高額な工事となり、限られた財源の中で早急に対応することは難しく、当初計画で改修内容の優先順位を検討するなか、塗装工事完了後の対応としていた。

しかし、近年のサイクリング人口の増加と合わせて、とびしま海道でのサイクリングイベントの開催が決定し、緊急にサイクリング利用者の安全性を確保する必要性が生じた。

創意工夫した点 ～ 工事請負業者と利用者の安全性確保の視点を共有

早急に利用者の安全性を確保するため、必要な施設の性能、コスト、工期を優先に設計を行い、工事請負業者と視点を共有した上で改修に取り組むこととした。

既存の工法にとらわれることなく、工事請負業者と新たな工法の検討・協議を重ね、安全性・快適性を確保した工法を開発した。



取組の成果（効果） ～ サイクリングロードとしての価値向上

工法を簡略化することで、最終的な設計案において、工事費は1/20程度に縮減することができ、工期も1ヶ月程度と大幅に短縮できた。

平成24年5月14日には日台交流のサイクリングイベントが開催され、参加者の安全な走行に寄与することができた。

サイクリストにとって、路面の障害を意識することなく、安全で快適な走行が可能となっただけでなく、一般車両の通行においても、走行時の騒音や振動を低減することができた。



(日台交流イベント)

今後の展開 ～ 耐久性の検証と他の橋梁への波及

各地で自転車が走行しやすい車道への改修が課題となっている。本事例は橋梁改修のモデルケースとなるものであり、今後、改修部分の耐久性等を検証し、他の改修工事へ波及させていきたい。

また、この工法では5年に一度程度、取り換えが必要となるが、橋梁の標準耐用年数（45年）に対応した工法に比べ、大きなコスト削減につながると考えている。

合わせて、安全・快適なサイクリングロードとしての知名度を高めていきたい。

他団体へのアドバイス ～ 目標の明確化、関係者との視点の共有化

目標を明確にし、工事請負業者とも視点を共有することで、スピード感をもって効率的に整備を推進することができた。

関係者と十分な情報共有が図ることが重要である。